



かく しん そのすべての核心にあるもの、No. 5: かみ すく けい かく 神の救いの計画、パート 1

しんやくせいしよ かくしん おし せいしよ なか もっと うつく せつ ひと
新約聖書の核心となる教えは、聖書の中で最も美しい節の一つにあります。

かみ 神はそのひとり子^こを賜^{たま}わったほどに、この世^よを愛^{あい}して下^{くだ}さった。
それは御子^{みこ}を信^{しん}じる者^{もの}がひとりも滅^{ほろ}びないで、永遠^{えいえん}の命^{いのち}を得^えるため
ある。口語訳聖書、ヨハネによる福音書 3:16

せ かい そうどう まえ き かく しん じんるい あい
世界の創造の前^{まえ}に、すでに決^きまっていた神の救いの計画とは、人類への神の愛が
こんてい かんさま どう き
根底にあります。神様の動機は、愛です。

かんさま うちゅう そうどう まえ し ゆう い し も つく じんげん つみ おが
神様は、宇宙を創造する前^{まえ}から、自由意志を持つように造られた人間は罪を犯す
ことをご存知でした。そこで、全^{ぜん}ての人^{ひと}が罪への罰^{ばつ}から救^{すく}われるように、救いの
けいかく つく じんるい
計画を作られたのです。人類を救うという計画によって、神は、その聖さ、義と公正、
あい あわ めく せいしつ そくめんとお かん
その愛や憐れみ、恵みという、神の性質のすべての側面通りの方^{かた}でいることができます。



よくある質問とは、「なぜイエス様は十字架で死ななければならなかったのか？ イエス様の死が、どのようにして罪のゆるしや神との和解をもたらしたのか？」というものです。

聖書に基づいた4つの概念を組み合わせ、違った角度から同じものを見てみると、イエス様の死が、どのように私達を罪への罰から救い、神様との和解¹をもたらしてくれるのが分かります。

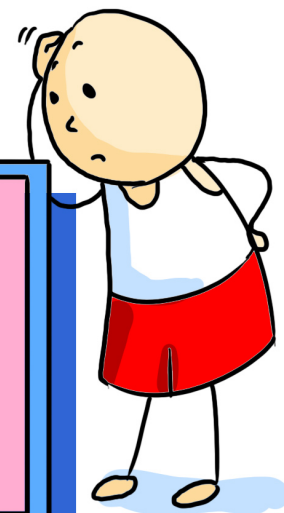
¹ 辞書では「和解」を「友情、和合性、調和などを回復すること」と定義しています。

あがないの供え物

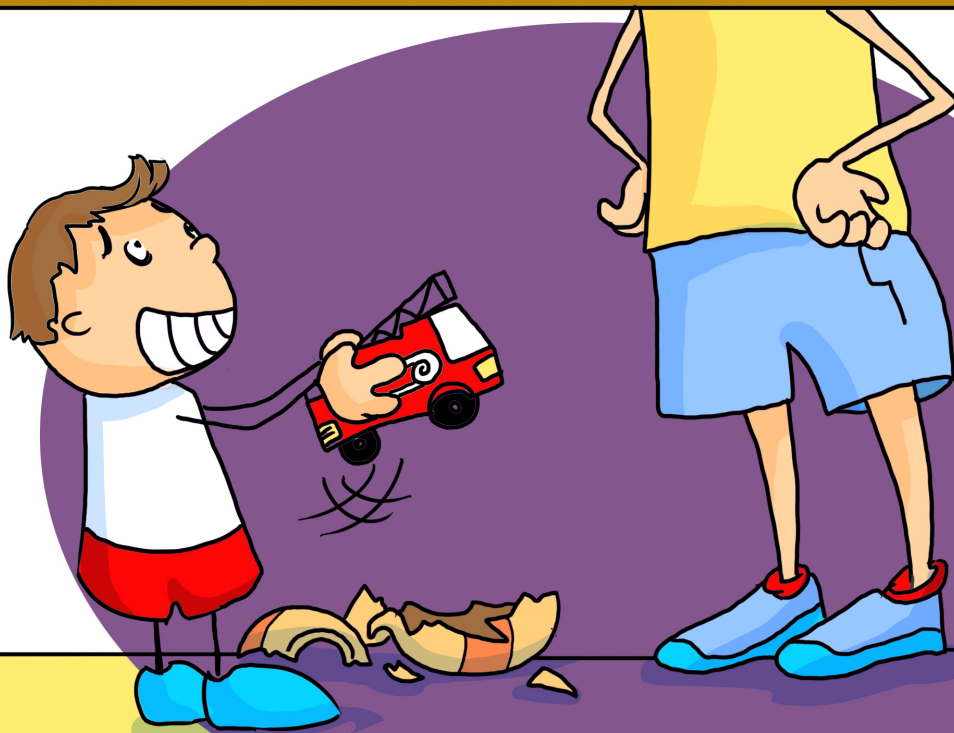
あがないの代価

身代わりの犠牲

和解



1. あがないの^{そな}供え物^{もの}



この点^{てん}について、ルイスとデマレストは、
次^{つぎ}のように説明^{せつめい}しています。

世界^{せかい}の裁き主^{さばぬし}である方は、御自身^{かたごじしん}の道德律^{どうとくりつ}が
絶えず破られ、私達^{わたしたち}が有罪^{ゆうざい}であることから、
それに値する死罪^{あたいしざい}を宣告^{せんこく}されました。それから、
御子^{みこ}が天^{てん}を離れて人^{ひと}となり、罪^{つみ}を犯さずに
生きた上^いで、私達^{うへ}の罪^{つみ}に対する[計り知れない]^{はかりし}
罰^{ばつ}を全て受けて下さいました。私達^{すべう}を有罪^うと
みなした裁き主^{くだ}は、私達^{みこ}の罪^{つみ}をあがなうために、
御自身^{かたごじしん}の御子^{みこ}として来られたのです。

最初^{さいしよ}の概念^{がいねん}は、「あがないの^{そな}供え物^{もの}」です。つまり、「怒り^いをしずめるための捧げ物^{ささ}」です。この概念^{がい}は、神^{かみ}の怒り^{かんけい}と関係^{かんけい}があります。
神^{かみ}は聖^{きよ}く義^ぎであることから、罪^{つみ}を裁き、罰^{さば}しなければなりません。その一方で、旧約聖書^{いっほう}で犠牲^{きやうやくせいしよ}が捧げられていたように、イエス様^{きせい}の
死^しという犠牲^{ささ}を捧げることによって、神^{かみ}の怒り^{かんけい}がしずめられました。私達^{わたしたち}への愛^{あい}から、神^{かみ}は、御自身^{ごじしん}の性質^{せいしつ}を変えることなしに、私達^{みこ}の
罪^{つみ}をゆるす方法^{ほうほう}を作^{つく}って下さったのです。(ヨハネの第一の手紙^{だいいち} 2:2とローマ人への手紙^{てがみ} 3:25を参照^{びとさんしやう})

2. あがないの代価

イエス様の死が、いかにして救いをもたらしたかを説明するのに役立つ、聖書に基づいたもう一つの概念は、「あがないの代価」です。「あがなう」や「あがないの代価」と訳された元々のギリシャ語は、「リュクトロー」と「リュクトロン」で、それは、身代金の支払いによって釈放すること、解き放つことを意味しています。

それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。口語訳聖書、マタイによる福音書 20:28



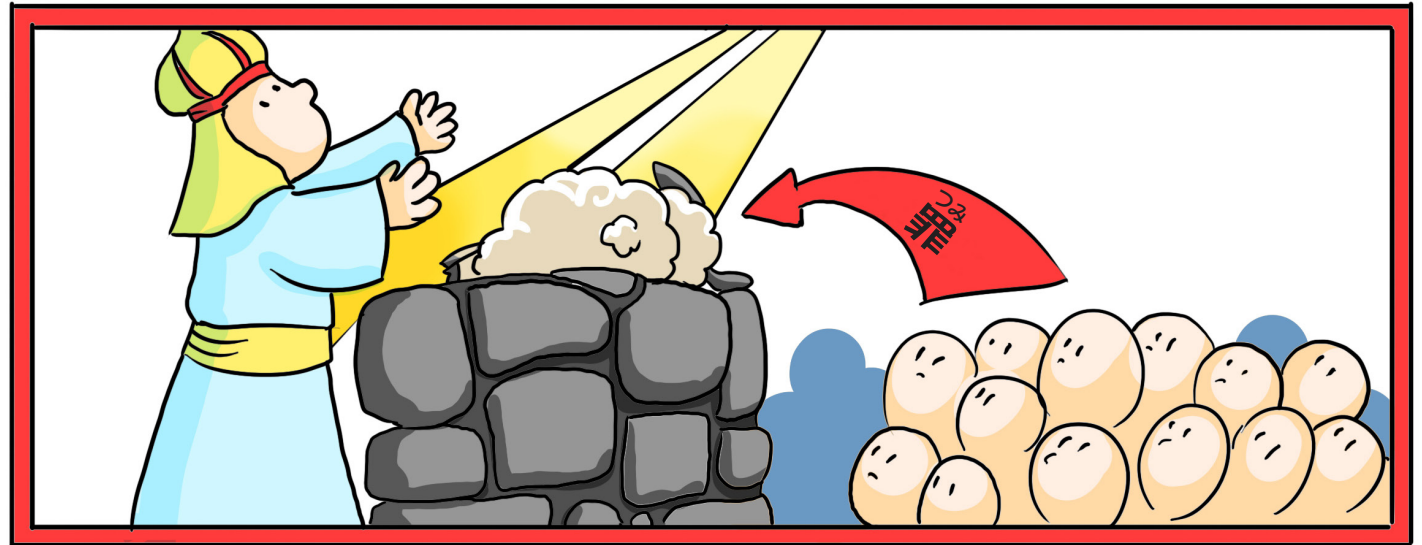
大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエス・・・が、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。口語訳聖書、テトスへの手紙 2:13-14

神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時になされたあかしにほかならない。口語訳聖書、テモテへの第一の手紙 2:5-6

これらの節で使われている「あがなう」という言葉は、その代価や身代金を支払うことを意味しています。あがないの代価は、父である神様に支払われます。そもそも罰を定められたのは、父だからです。神様の御子であるイエス様が、御自身の死によって、そのあがないの代価を支払って下さるのです。

3. 身代わりの犠牲

救いをさらに理解するのに役立つ
三番目の概念は、「身代わりの犠牲」、
または「罰の身代わり」です。この場合、
「身代わり」とは、誰かの代わりを務める、
誰かを代表するという意味であり、それこそ、
イエス様が十字架での死をもって、
して下さったことです。



彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。口語訳聖書、イザヤ書 53:5

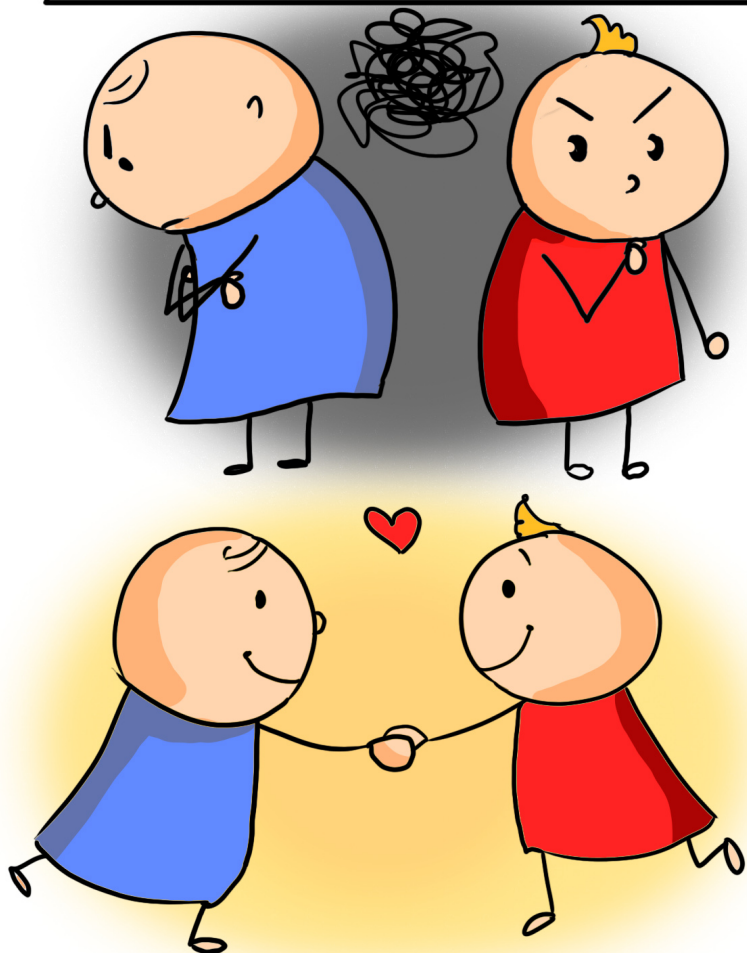
われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。口語訳聖書、イザヤ書 53:6

イエス様は、多くの人のためのあがないの代価として、御自身の命を与えたと言われました。以下の節で「～の」（あがない）と訳されている言葉は、ギリシャ語の「アンティ」で、それは「～の代わりの」「～の代理の」という意味です。

人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。口語訳聖書、マルコによる福音書 10:45

よんばんめ がいねん わ がい いっぱんてき なが ふたり あいだ てき い
四番目の概念である和解は、一般的に、仲たがいした二人の間の敵意がなくなること指します。
それまで離れていた人達、敵対していた人達が、再びひとつにまとまるということです。罪は、
人を神から離れさせ、隔てます。けれども、イエス様の死は、その隔てを取り除き、私達の神様との
かんけい かんけい
関係を変えたのです。

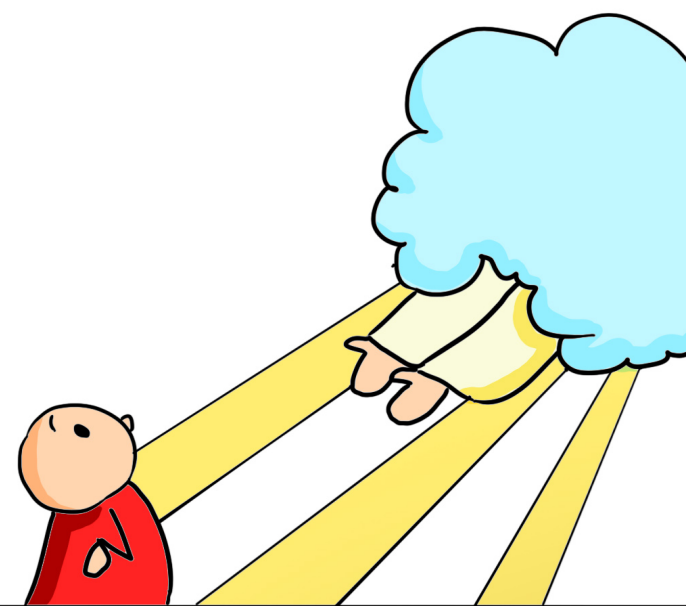
4. 和解

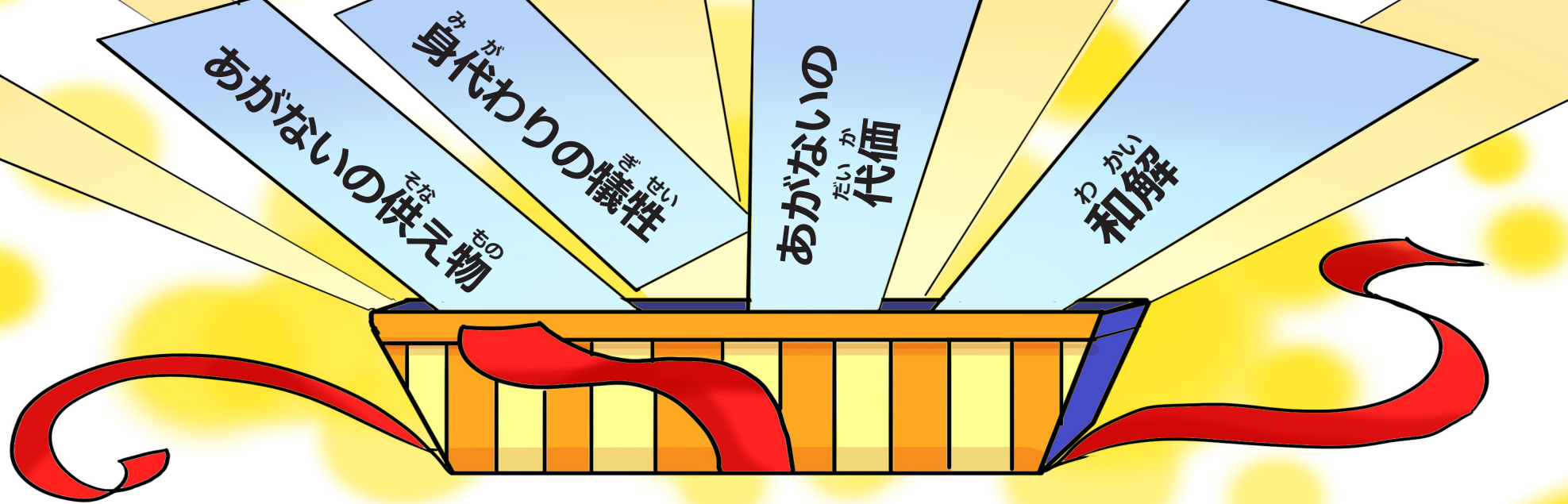


キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを
ひとつにし、敵意という隔ての中垣を取り除 [かれた]。
こう ご やくせいしょ ひと びと て がみ
口語訳聖書、エペソ人への手紙 2:14

もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死に
よって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている
いま 今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。
口語訳聖書、ローマ人への手紙 5:10

かみさま わたしたち あいだ わ がい わさ
神様と私達の間の和解は、私達ではなく、神様の業です。
おお あい あわ ごとしん
神様はその大きな愛と憐れみのゆえに、私達が御自身と
和解できるようにして下さったのです。





あがないの供え物、身代わりの犠牲、和解、あがないの代価は、私達を愛しておられる憐れみ深い神様が
しておられることを別々の言葉で言い表したものです。救いは、神様から私達への無料の贈り物です。私達が
そのために何かをしたためではなく、それに値するようなことを私達は何か一つすることができません。

私達の罪のために犠牲になることができたのは、罪のない救い主であるイエス様だけでした。イエス様は、
罪を犯さず神様に従順な人生を生きられました。もし罪を犯されたなら、私達の罪のためではなく、
御自身の罪のために死ななければならなかったでしょう。けれども、罪は犯されませんでした。

イエス様は、神の聖さを保った人生を生きられたので、罪に対する罰を受けるに値することはありません
でしたが、私達の罪を御自分の身に負われました。私達一人一人の身代わりとなって下さったのです。
イエス様は、私達の罪と罰の両方を身に負うことにより、私達一人一人が神様と和解できるようにして
下さったのです。

